団体名：しろいしてんぺ加工協議会
代表者：猪ノ口　操
所在地：佐賀県杵島郡白石町

〔ポイント〕
昭和６３年度、生産農家の女性を主体に、地域の特性を活かした地場産業、地場産品の開発（1.5 次産業）を目的とした「白石町地場産品開発推進協議会」を２２名で発足。
平成１６年度、「しろいし特産物直売所」の建設に伴い、新加工所を直売所に併設し、組織名も「しろいしてんぺ加工協議会」に改名。
白石産の大豆を 100 ％使用した「しろいしてんぺ」の生産・販売、地元の学校・保育園等の給食への食材供給、消費者を対象にした食農教育講座や郷土料理講習などの活動を行っており、このような活動が白石産大豆の消費拡大や消費者の地場農産物への理解促進、ひいては『地産地消』の取り組みによる地域の活性化に繋がっている。

【活動の内容】
異業種連携による地場農産物の利用促進協議会では、白石町の顔となる特産品開発のため、「しろいしてんぺ」を生かし、農業・商業・行政が密接な連携を図りながら、大豆の生産から加工、消費へと繋がるてんぺ関連のバラエティー豊かな特産品づくりを進めてきた。
特に、白石町の農村女性加工組織「みどり会」や町内の加工業者と協力して、惣菜（てんぺおこわ）や菓子（てんぺ饅頭・てんぺかりんとう、てんぺ入りチーズケーキ・チョコレートケーキ、スコーン等）などを開発し、若者や子供など幅広い消費者の方々が手軽に食べられるような商品づくりに取り組み、町内外の直売所やデパートで取り扱ってもらうようになった。

【活動の成果】
１．加工所構成員を始めとした大豆生産農家は、自分が生産した大豆が、学校給食などにより地元で消費されるようになったこと、試食販売等により消費者との交流が深まったことなどにより、高品質な大豆生産への意欲が高まった。
２．てんぺ販売の啓発活動で、町内産大豆の PR ができるとともに、白石大豆の付加価値が高まり、知名度アップにつながった。
３．これまでの地域を挙げた地産地消活動の成果を踏まえ、白石町総合計画（平成１８年３月策定）の中で、「産業の垣根を越えたネットワーク化による特産加工品の開発」や「付加価値を高めた農産物の販売促進や新しい特産物の開発・加工、地産地消活動等の積極的な推進」が掲げられた。
４．加工所の会員による直接販売や食農教育の取り組みで、生産者と消費者の「顔が見え、話が出来る関係」づくりが進み、幅広い年齢層の消費者に対して地元農産物や郷土食に対する理解促進が図られた。
５．農村女性が、自らの生産物を活かし無理なく働ける場所ができて所得確保につながった。
６．異業種連携による特産品づくりに取り組んだことで、健康・安全・安心等消費者の視点を生かした加工品開発が図られるとともに、新たな交流が生まれ、活気あふれる町づくりにつながっている。